

ごみ持ち帰り、空から啓発

B B Q 利用者へドローン活用

美濃市・板取川

地域おこし隊員ら手応え

美濃市長瀬の板取川河川敷で、産業用ドローンを使ってバーベキューなど河川敷利用者にごみの持ち帰りを呼びかける新たな取り組みが行われた。同所の河川敷では、行楽客のごみが長年の課題。今後、取り組みの効果を調べる。(佐名妙予)

産業用ドローンを使ってごみの持ち帰りを呼びかける音声を流す試みが行われた河川敷。美濃市長瀬、板取川



同市の地域おこし協力隊で同所の河川敷のごみ問題の解消を探る小椋唯さんと、同市曾代で「ドローンミュージアム&パーク」を運営するROBOZが企画、実施した。

同社の石田宏樹社長らが現地で、スピーカーを取り付けた産業用ドローンを操作。同所の河川敷は外国人の利用者も多く、日本語、英語、ポルトガル語の3言語で録音したメッセージをドローンを飛ばしながら流すと、注目が集まった。

人が利用者に1組ずつ声をかけるよりも、より早く広範囲にメッセージが伝え

られる。同社では過去にカワウの撃退で同様のドローンを使った例があるほか、全国的には救助現場での活用事例があるが、啓発活動として使うのは珍しいという。今後は、美濃橋に近い長良川河川敷での運用も検討する。

石田社長は「声がけを嫌がる人がいるのではと心配

したが、やってみると好意的だった。改良を加えながら続けたい」と話した。小椋さんは「これまで歩いて声がけをする中での取り組みは反応が良く、ドローンで広範囲にできればより良いのでは。市外からの人も地元の人にも気持ち良く河川敷を利用できるよう考え続けたい」と話した。